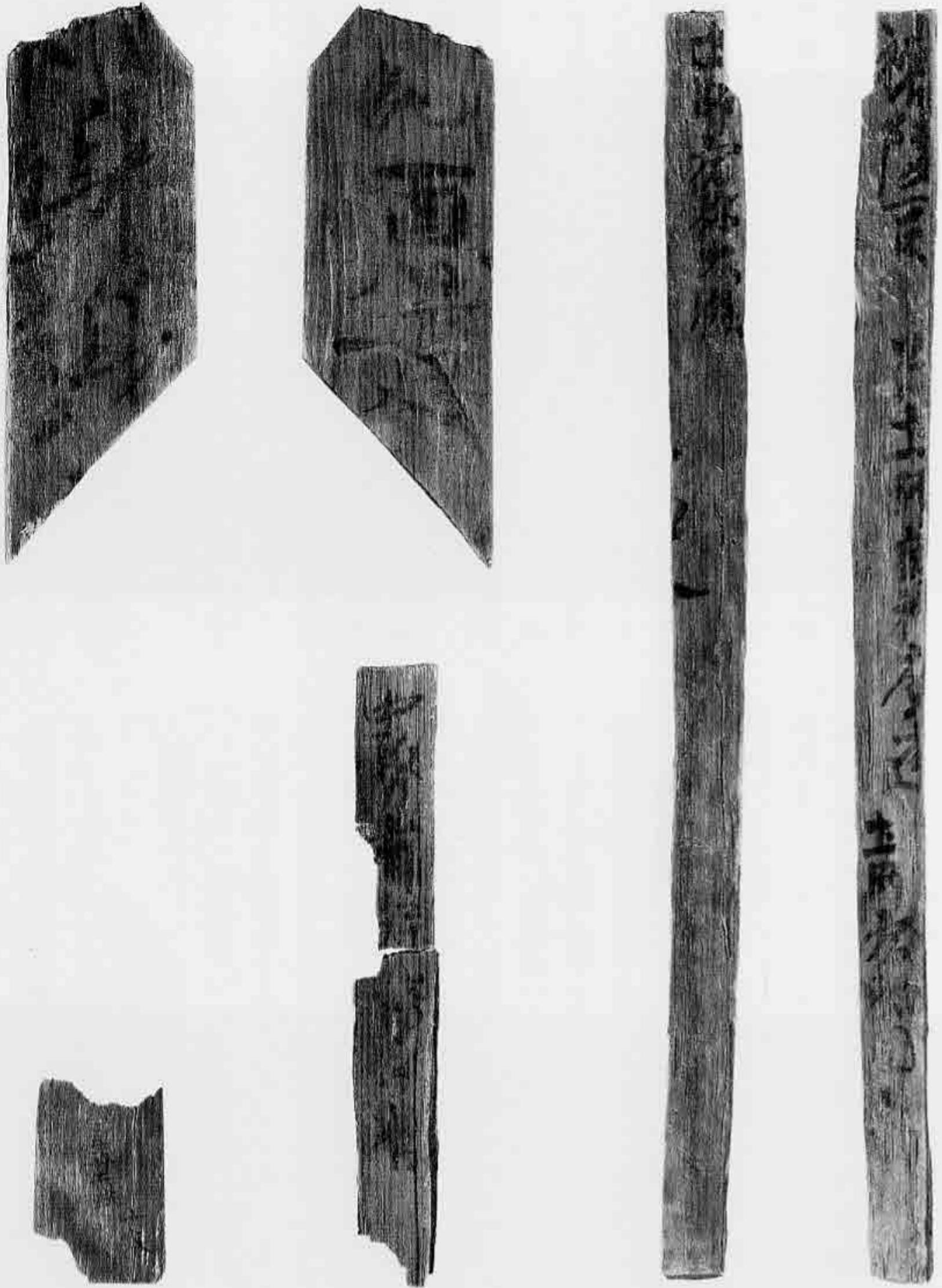


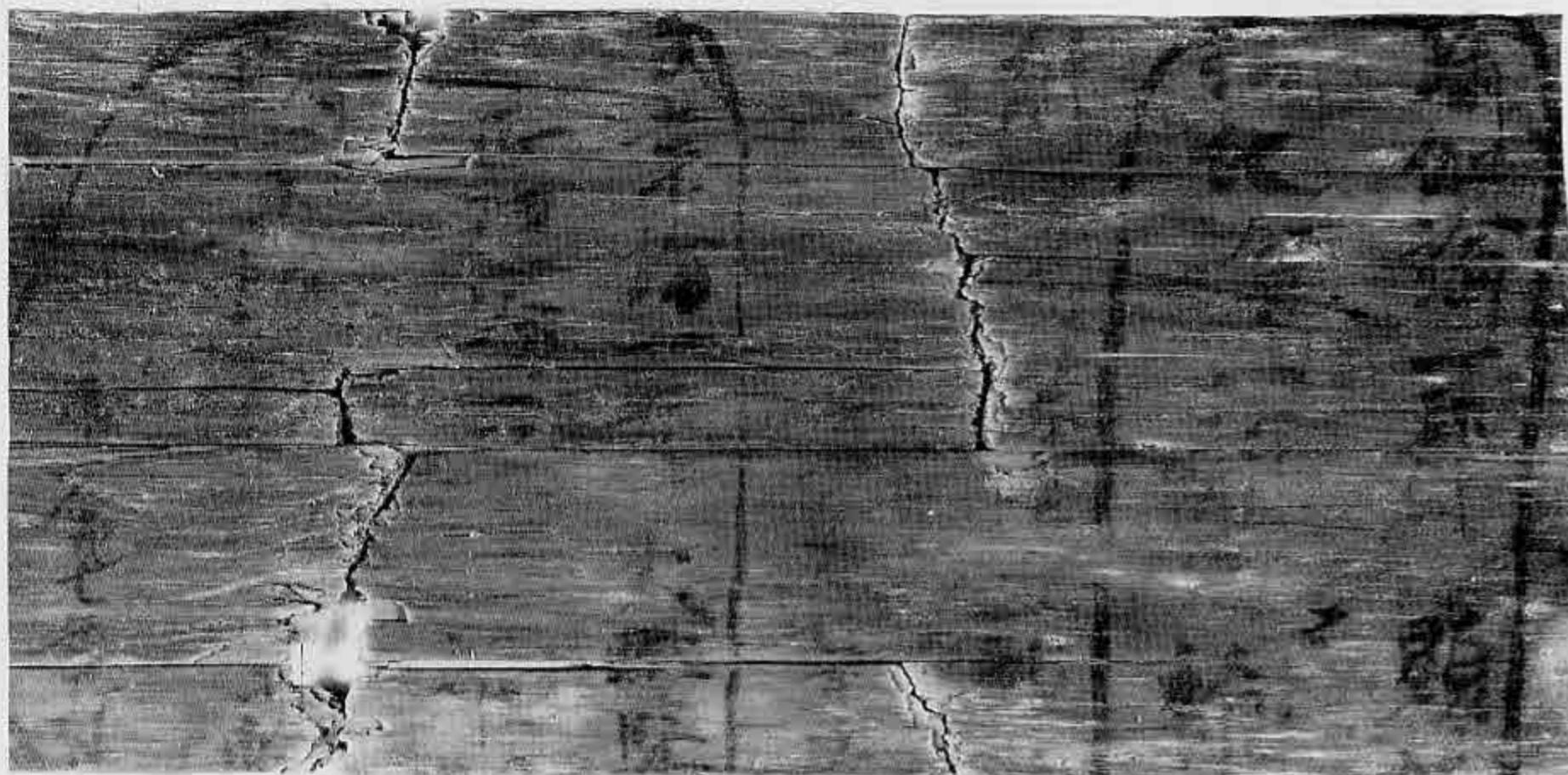
一九九一年五月

飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十)

奈良国立文化財研究所



藤原宮第61次調査、山田寺第7・8次調査出土木簡（1：2）



山田寺第8次調査出土木簡（部分、1：2）

この概報には、さきに公刊した『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報九』（一九八九年五月）以後、飛鳥藤原宮跡発掘調査部の行った発掘調査で出土した木簡のうち、主要なものを収録した。木簡が出土したのは、藤原宮第六〇一・二〇・六一（以上藤原宮）・六二次（藤原京）調査及び山田道第三次調査、山田寺第七・八次調査においてである。なお平成二年度末に実施した藤原宮第六三・一・二・六五次調査（以上藤原京）においても木簡が出土したが、現在整理中であり、本概報以後に公刊される『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報十』で報告の予定である。

次に木簡の出土地点と出土状況について略述するが、詳細については当該年度の『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』・『奈良国立文化財研究所年報』等によらるたい。

## 一、木簡出土の地点と状況

藤原宮第六〇一・二〇次調査（6AJHIP・Q区）

一九九〇年三月～四月

本調査は公共下排水路整備に伴う事前調査として実施したもので、調査地は藤原宮の南面大垣に開く三つの門のうち、西門の推定位置に当る。調査面積は二三〇m<sup>2</sup>。

検出した遺構は、藤原宮の南面内濠SD五〇二のみで、推定位置に南面西門を検出できなかった。西門の推定位置では遺構の検出面が古墳時代の包含層であることから、門の基壇は既に削平されてしまったものと考えられる。SD五〇二は幅約二・五m、深さ〇・九mほどの規模で、堆積層は上下二層に分けられる。上層には大量の瓦が、また下層には木屑が詰まっていた。

木簡は、SD五〇二の上下二層ある堆積層のうち下層の木屑の層から二〇点が出土した。木簡は全て削屑で、しかもそのほとんどが細片である。

藤原宮第六一次調査（6AJFIC・D区）

一九九〇年四月～八月

調査地は藤原宮大極殿院・内裏の東外郭東側および

東方官衙地域の西辺部に当り、調査は第四次調査区の北に接して調査区を設けて実施した。調査面積は一一〇〇m<sup>2</sup>。

検出した遺構は弥生時代・藤原宮期・平安時代および中世に属する。藤原宮期の主な遺構には、大極殿院・内裏外郭の東を限る南北掘立柱塀SA八六五、SA八六五の東方に位置する南北溝SD八六九・東大溝SD一〇五・南北溝SD八五〇の三条の溝、東方官衙の西を限る南北塀SA六六三〇と官衙内の掘立柱建物、などがある。

木簡は、SD一〇五から二四点（うち削屑五点）、SD八五〇から五六点（うち削屑九点）、計八〇点が出土した。

SD一〇五は藤原宮東半地域の基幹排水路で、最大幅五m、深さ〇・七mある。下層には補修の痕が認められ、最上層は埋め立てられている。木簡は瓦・土器・木製品とともに下層から出土した。なおSD一〇五南半の両岸には大小の穴が順に並ぶ橋脚状遺構SX八六一がある。

SD八五〇は東方官衙の西を限る溝で、幅二・四

m、深さ〇・七mある。最上層は埋め立てられ、木簡は瓦・土器とともに下層から出土した。なおSD八五〇とSD一〇五の間は幅約一七mの南北宮内道路である。

#### 藤原宮第六二次調査（6AJHIR・S区）

一九八九年七月～一〇月

調査は宅地造成に伴う事前調査で、調査地は藤原京右京七条一坊西北坪北半部の東半に当る。調査面積は二五〇〇m<sup>2</sup>。

検出した主な遺構は、古墳時代、藤原宮直前から藤原宮期、中世・近世に属する。藤原宮直前から藤原宮期の遺構には、掘立柱建物・掘立柱塀・素掘り溝・井戸・土坑などがある。

木簡は井戸SE六五〇〇から二四点が出土した。木簡はいずれも削屑の細片である。SE六五〇〇は底に円礫を詰めその上に一辺五五cmの横板組の井戸枠をのせる。堆積土中には木簡のほか飛鳥Vの土器や独楽などの木製品、瓦が含まれていた。

## 山田道第三次調査

(6AMHIF・6AMCIN区)

一九九〇年一〇月～十一月

本調査は、一九八八年度から実施している県道の拡幅工事に伴う事前調査の継続調査である。調査地は高市郡明日香村奥山、雷丘から桜井へ向かう県道(古代の山田道を踏襲していると推定されている)沿い北側の水田である。調査面積は八二〇m<sup>2</sup>。

検出した遺構は弥生時代、古墳時代、七・八世紀代および中世の各時期に属する。このうち七・八世紀代の主な遺構には、東西道路SF二六〇七、東西溝SD二五四〇、南北溝四条SD二五四一・二六二三・二六二四・二六二五、石敷SX二六三三、などがある。

木簡は東西溝SD二五四〇と南北溝SD二六二三・二六二五および奈良時代の包含層から各一点づつ、合計四点が出土した。東西溝SD二五四〇は東西道路SF二六〇七の北側溝に当たると推定される幅約二・五m、深さ〇・三～〇・六mの素掘り溝で、七世紀末～八世紀前半頃の土器を含んでいる。南北溝SD二六二

三・SD二六二五はともに断面がU字状を呈する浅い素掘りの溝で、北に流れる。堆積土は粗砂で、多量の土器類を含む。時期は七世紀末～八世紀前半に属する。

## 山田寺跡第七次調査(5BYDIN区)

一九八九年一〇月～一九九〇年二月

本調査は、特別史跡山田寺において昭和五十一年より継続して実施してきた調査の第七次に当り、調査地は南門とその南方の地域である。調査面積は一一五〇m<sup>2</sup>。

検出された遺構は、山田寺の遺構と山田寺造営以前に属する遺構とに大別される。山田寺の遺構はさらに南門造営以前のもの、南門造営以後のものに細別され、前者には東西掘立柱塀四条SA六〇〇・六一五・六二一・六二四、東西溝二条SD六〇一・六〇九があり、また後者には南門SB〇一とこれに取り付く東西掘立柱塀二条SA六三〇・六三一、東西溝SD六二五とこれに架かる橋脚SX六二二・六二三、南門から南

北に延びる参道二条SF六一〇・六四〇、幢幡の竿を立てた遺構と考えられるSX六〇五、などがある。山田寺造営以前の遺構は、南門南の参道上で行った断ち割り調査において確認したもので、山田寺造営に伴う整地土下で検出した旧流路SD六一九とそれに沿い東西に並ぶ柱穴三個SX六二〇がある。

木簡は整地土下で検出したSD六一九から五一点（うち削屑四四点）が出土した。SD六一九は深さ約一・六mで、その上方一・二mは山田寺造営に関わる整地によって埋められ、下方〇・四mに二層の堆積層が残る。木簡は二層の堆積層から出土した。木簡以外にも飛鳥I（七世紀前半）の土器・木製品・獣骨や多量の木片が出土した。

なおSD六二五からは底部外面に「山田寺」と墨書した奈良時代後半の土師器皿が一点出土しており、本寺跡の寺名を考える有力な資料として注目される。

#### 山田寺跡第八次調査（5BYD1L区）

一九九〇年八月～十二月

本調査は山田寺の寺域の西限と回廊東北隅部の状況を確認するために西区と東区の二つの調査区を設けて行った。調査面積は併せて八〇〇m<sup>2</sup>。

西区では、寺域の西限を画する南北掘立柱塀SA六八〇、SA六八〇に開く西門SB六八五を確認し、また東区では、東回廊SC〇六〇、回廊東雨落溝SD五五二、東回廊の東に位置する宝蔵SB六六〇、宝蔵の四周を繞る雨落溝SD六六一～六六四、寺域の東限を画する南北掘立柱塀SA五〇〇・基壇状高まりSX五三五、等を検出した。

木簡は東区のSB六六〇基壇上面およびSD六六四からそれぞれ一点と七点、計八点が出土した。SB六六〇は方三間の総柱礎石建物で、基壇上面からは木簡のほか若干の木製品・金属製品が出土した。SD六六四は幅一・一・五m、深さ〇・二mの素掘りの溝で、護岸施設はみられない。堆積土は上下二層に分れ、木簡は上層から大量の木製品・建築部材、少数の金属製品とともに出土した。

## 二、凡例

(一) 釈文は出土遺構ごとに掲げ、同一遺構の中では、内容分類によって、文書、付札、その他の順に配列することを原則とした。

(二) 釈文の漢字はおおむね現行常用字体に改めたが、一部の文字については正字体を使用し、異体字は「躰」等についてのみ使用した。

(三) 釈文の最下段に出土の地点を示す小地区名(アルファベット・数字)、その上段に現在の遺存状態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りである。但し本研究所では型式番号は四桁の数字を用いるが、本概報では時代を示す千の位を省き、下三桁の数字で表した。なお端とは、木簡を木目方向においた時の上下両端をいう。

6011型式 長方形の材のもの。

6015型式 長方形の材の側面に穴を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6011・6032・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。方頭・圭頭など種々の作り方があ

る。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをい

れ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6033型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判

明しないもの。

6091型式 削屑。

(四) 釈文に加えた符号は次の通りである。

とと 抹消した文字の字画のあきらかな場合に限

り、原字の左傍に付した。

■■■■ 抹消により判読困難なもの。

□□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□□ 欠損文字のうち字数が推定できるもの。

□□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□□ 記載の内容からみて上または下に一字以上の

文字を推定したもの。

「」 異筆、追筆。

∪ 合点。

木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

カ 編者が加えた注で疑問の残るもの。

ママ 文字に疑問はないが、意味の通じ難いもの。

〔 〕 校訂に関する注のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

(一) 右以外の校訂注および説明注。

(五) 釈文下のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・

厚さを示す(単位はミリメートル)。欠損・二次的整

形の場合、現存部分の法量を括弧つきで示した。但し

軸木口に墨書あるものについては軸の長さ・直径を記

し、欠損しているときは、現存部分の長弦を括弧つき

で示した。なお長さ・幅は木簡の字の方向による。

(六) 釈文の出土地点の下に付した※は、口絵図版

に写真を掲げた木簡を示す。※1は図版一に、※2は

図版二にそれぞれ掲げた。

三、木簡积文

藤原宮第六〇―二〇次調査

(6AJHIP・Q区)

・吉備中国下道郡 158・(20)・4 032 CD63

・矢田里矢田マ刀祢〔李丸〕

南北溝SD八五〇

南面内濠SD五〇二

右□

091

中務省牒〔留丸〕□守省

(127)・(17)・4 081 CH56※1

□女年

091

・諸陵司 召土師宿祢広庭 土師宿祢国足

藤原宮第六一次調査

(6AJFIC・D区)

・土師宿祢大海

□四人 261・(16)・4 011 CB56※1

東大溝SD一〇五

・猪名真人虫麻呂 佐伎

□ (160)・(21)・3 081 CD56

巳亥年九月七日

(117)・68・7 011 CC62

□ □奉申 (194)・(13)・2 081 CD56

□ □阿佐為評

(172)・(8)・8 081 CH62

□ □ □南貴 (183)・(11)・3 081 CE56

・辛犬□□ 176・19・6 051 CB63

南北溝SD二六二五

・政人一 舍人□

僧□□

091 FG29

・備前国

(珂)

□磨郡

山田寺跡第七次調査(5BYD-N区)

・他田里□家□  
人麻

旧流路SD六一九

藤原宮第六二次調査(6AJH-R・S区)

・見悪悪

(116)・39・3 081 NL36※1

井戸SE六五〇〇

・□身身  
□□□□

□□年六十三

091 SI24

・耳

(49)・(23)・2 081 NL36

山田道第三次調査(6AMH-F・

・□□  
□

6AMC-N区)

南北溝SD二六二三

城城城□

091 NL36

・□□マ

□□□□

(149)・(23)・4 081 FD23

城□城

091 NL36

・ 亀甘マ

伊艾□

□□□□

□□城城城

091 NL37

山田寺跡第八次調査 (5BYD1L区)

宝蔵SB六六〇基壇上面

日向寺□□二斗一升半□□(221)・45・9 019 LS21

経第廿二帙 十卷

(40)・26・2 019 LP20\* 1

同月白□九斤之中八斤者昔日出分  
〔綬カ〕

□斤□

宝蔵西雨落溝SD六六四

・疏一部 判比<sup>〔量カ〕</sup>一卷

弘仁二年十一月十六日充義勝

□□月廿七日<sup>〔下カ〕</sup>□□□□

入□□□□□

(835)・(86)・4 081 LP21

目代光嚴<sup>〔主録カ〕</sup>□□□□□

大同二年十二月廿六日下唯識論疏十四卷<sup>〔翻法師カ〕</sup>

一卷借慈忠 知倉人乙人

知倉人持成

□□論□□□<sup>〔一カ〕</sup>

□□<sup>||</sup>  
□□

□□

□□ □月十四日□□  
□□ □□□

|| 論廿八卷<sup>〔大〕</sup>□□□□□□

□義勝

□上十七□  
八月十三日□□

〔知カ〕



(485) · (71) · 3 081 LP21※ 2

卷  
 三  
 檢定  
 四月廿九日圓勝師借  
 論疏八卷以天平  
 集論疏十卷以天平  
 四月十一日尊  
 三  
 集  
 龍

唯力  
 識論

綖  
 綖  
 綖

(149) · (18) · 4 081 LP21

三月廿五日下午

# 藤原宮木簡等出土地点略図

